

## トロフィーの制作と写真展

低炭素杯2012において環境大臣賞受賞団体へ授与される「低炭素杯トロフィー」は、造形家の齊藤公太郎氏が、石巻市のがれきを使って東日本大震災で被害を受けた石巻市立湊小学校の子ども達と協働で制作しました。また、この時、子ども達自身も東日本大震災などを乗り越えて卒業を迎える、自分自身への記念トロフィーを制作しました。



### トロフィーの制作経過

#### 1. 2011年12月20日

齊藤公太郎氏が石巻市立湊小学校で6年生を対象に低炭素杯トロフィー及び卒業記念トロフィーの制作についてオリエンテーションを開催しました。

#### 2. 2012年1月11日・12日

齊藤公太郎氏が2日間にわたり石巻市立湊小学校で6年生の卒業記念トロフィー制作を指導しました。その際、同氏が制作を手がけた「低炭素杯2012」トロフィーに子ども達のメッセージが書き込まれました。



齊藤 公太郎 氏  
【プロフィール】  
造形家。東北地方にルーツを持ち、現在は群馬県に在住。環境への見識が高く、群馬県地球温暖化防止活動推進員でもある。低炭素杯2011では、自身の制作テーマ素材である風倒木を使いトロフィーを制作。低炭素杯の意図も深く理解しているアーティスト。

### トロフィー制作者のコメント

低炭素杯2012の表彰式において、司会の櫻田さんが制作者である齊藤公太郎氏と湊小学校の方々に話を伺いました。

#### “齊藤公太郎氏のコメント”

櫻田さん 齊藤さんはこのトロフィー制作のお話があったときいかがでしたか。

齊藤氏 私はものを作る人間です。この大震災に対し、ものづくりのなかで何かを表現したいと考えました。自分ができるところに立ちたいとずっと思っていました。これは与えられた機会なんだと思いました。

櫻田さん トロフィー制作のイメージをどのように。

齊藤氏 低炭素杯のトロフィー制作であるわけですが、これと大震災とどう結びつけていくか。未来をになう子ども達が、いま一番助けを求めている。そこにどう手をさしのべるか。彼らの思いをどう引き出していくのかを考えました。

櫻田さん 今回のトロフィーの素材について教えてください。

齊藤氏 石巻の湊地区のがれきを使用しました。がれきは子ども達の家であった可能性が高い、いや街そのものでした。低炭素杯のトロフィーはもちろん子ども達自身のトロフィーもこのがれきで作りました。

櫻田さん 子ども達と触れ合っただけですか。

齊藤氏 こういう子ども達はどう表現できるのか、不安でしたが、その中で子ども達は思っていることをどんどん形にしてくれました。そこに未来が見えたように思います。

櫻田さん 子ども達から低炭素杯で頑張る皆さんへのエールが形になったんですね。

#### “湊小学校の實教頭先生と生徒の寺上さんのコメント”

櫻田さん 最初、このトロフィーのお話があったときどのように思われたのでしょうか。

實教頭先生 普段の年の卒業制作とは違って、彼らはこの大震災を乗り越えて卒業にこぎつきました。齊藤さんの力を借りて、子ども達に自分たちはすごいことをしたんだと、自分が自分に対してトロフィーをあげるといことをさせてあげたいと思いました。

櫻田さん 作る過程をご覧になっていかがでしたか。

實教頭先生 真剣に作る様子、できあがった形を見てびっくりしました。齊藤さんの思いと子ども達自身の思いに感激しました。素晴らしい出来でした。

櫻田さん 伝えたいことがあるとお聞きしていますが。

實教頭先生 皆さんのおかげで学校、子ども達が元気になりました。ほんとにありがとうございます。もうひとつは石巻、宮城のがれき処理が進まず復興が進まずにいます。ぜひご支援ください。

櫻田さん 湊小学校生徒の寺上さん、作ってみてどうでした。

寺上さん 面白かった。また、がれきで作ったことに思い入れがありました。

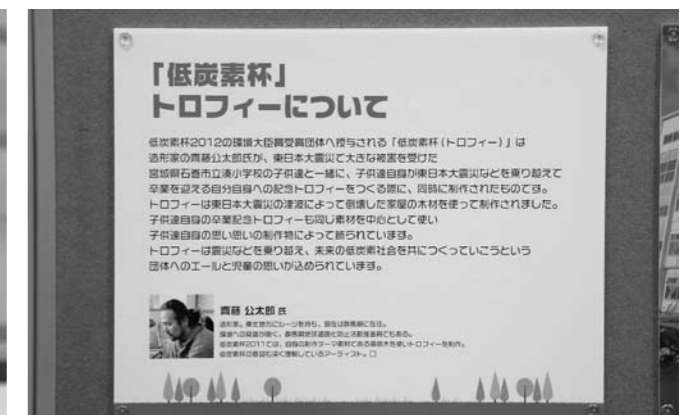
櫻田さん ほんとにいいトロフィーをありがとうございました。

### トロフィー制作の写真展

低炭素杯2012会場ロビーにおいて子供達との制作の様子をパネル展示する写真展を開催しました。



写真展の入口



写真展の全体



熱心に見る参加者



自分自身の卒業記念トロフィーを持つ石巻市立湊小学校6年生の皆さん

## 企画・審査委員長の講評

企画・審査委員長  
金谷 年展

出場団体の皆さん、昨日は半日ばかりでプレゼンテーション頂きまして、本当にありがとうございました。ステージ上での綿密な寸劇や、ついには熱唱、歌まで登場いたしました。色々な環境のイベントがある中で、これだけパフォーマンスまで含めて環境の取り組みを伝えるというものは他にはないのではないかと思います。低炭素杯では、こういった部分は今後も大切にしていきたいな、と思います。



そして今回、審査して、有名で本当に誰もが知っている横綱級の取り組みをしている団体から、『あっ、こんなことしているんだ』というような隠れた素晴らしい取り組みというか、『あまり今まで伝わって来ていなかったけれど、こんなことをやっているんだ』という団体まで色々な団体の方に、ご参加頂きました。そこが、この低炭素杯のすごく良いところなのではないかと思います。

今回は特別賞として、東日本大震災被災地域貢献活動賞を設けさせて頂きまして、実はこれも審査の中で非常に議論されました。その結果、1団体の予定を大幅に増やさざるを得なくなりました。これは、低炭素の取り組みが震災復興にも役に立つという事を実証したのではないかと思います。

今回は特別賞として、東日本大震災被災地域貢献活動賞を設けさせて頂きまして、実はこれも審査の中で非常に議論されました。その結果、1団体の予定を大幅に増やさざるを得なくなりました。これは、低炭素の取り組みが震災復興にも役に立つという事を実証したのではないかと思います。

また取り組みのイノベーションの質が非常に高くなっていました。もちろん技術的な質の高さもあるのですが、新しい仕組み、ビジネスモデルをつくるという点でも非常に素晴らしい取り組みがたくさんありました。そういった今までにない仕組みをつくりあげ、広げていくというのも非常に重要なことだと実感させられました。

もう一つは環境への取り組みというのを何か我慢して、何かを犠牲にしてやるのではなく、実はそれが地域の活性化にもつながったり、経済活動一帯が温まったり、あるいはすごく快適になったり、というような一石三鳥、四鳥の取り組みがたくさん出て来ていたと感じています。プレゼンテーションの中でも多くの団体が「Win-Win-Win」と言われていたように、これからは一石三鳥、四鳥のものをどういう風に見つけていくのかという知恵が非常に重要だと感じさせて頂きました。

このような中で我々は非常に困りながらも、議論して、何とか結果は出させて頂きました。私自身、昨日プレゼンテーションして頂いた全ての方々に、敬意を表したいと思っております。『心に火をつけて頂いてありがとう』という言葉を送りたい、と思います。

この後の表彰では、その中でも優れたものを表彰させて頂きます。その取り組みが日本に止まらず、国際的に広がって欲しいという視点も今回の評価の大きな要素となっております。この後、審査結果が公表されますので、ぜひ受賞された方を皆さんで称えて頂ければと思っております。

## 受賞団体一覧

2012年2月19日午前10時より第3回企画・審査委員会が開催され、2月18日に行われた41団体によるプレゼンテーションをもとに、各賞受賞団体が決定されました。当初予定していた賞に加え、審査員特別賞が追加表彰されました。

## 環境大臣賞

## ■グランプリ

栃木農業高等学校 地域おこしプロジェクト班〔栃木県〕

守れヨシの湿原、とりもどせ農村のヨシズ作り

## ■金賞（地域活動部門）

NPO 法人あきた菜の花ネットワーク〔秋田県〕

菜の花で秋田を元気にしよう！（菜の花から始まる循環型社会）

## ■金賞（学生活動部門）

神奈川県立相原高等学校畜産部〔神奈川県〕

新たな環境保全・循環型農業の模索～地域に根ざしたりサイクルループの構築を目指して～

## ■金賞（企業活動部門）

アイフルホームカンパニー〔東京都〕

日本全国・地域まるごとCO<sub>2</sub>ゼロエミッションプロジェクト

## ■金賞（ソーシャルビジネス部門）

有限会社仲田種苗園〔福島県〕

シードバンクを活用した地球温暖化防止と生物多様性の復元



環境大臣賞受賞団体の皆さん

## 特別賞

## ■東日本大震災被災地域貢献活動賞



## いわてバイオディーゼルネットワーク〔岩手県〕

東日本大震災におけるBDF燃料による被災地緊急支援

## NPO法人日本の森バイオマスネットワーク〔宮城県〕

木質バイオマス燃料の普及を軸にした復興支援活動

## NPO法人そらべあ基金〔東京都〕

太陽光で園児及び地域社会と循環型社会構築—そして被災地支援へ

## ■節電対策貢献活動賞

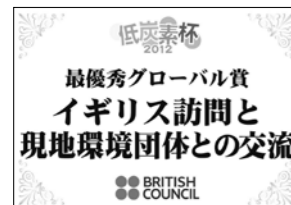


## ENEX株式会社〔秋田県〕

地下水熱を利用した低炭素型ヒートポンプエアコン

## 協賛・協力企業賞

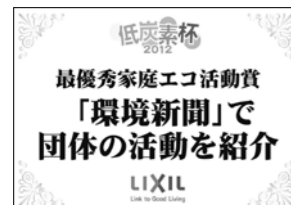
## ■最優秀グローバル賞



## 那須温泉地球温暖化対策地域協議会〔栃木県〕

温泉余熱排湯熱及びバイオマス燃料の利用による石油代替エネルギー

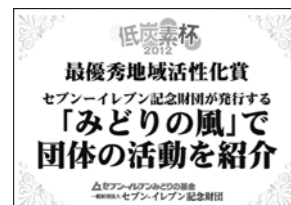
## ■最優秀家庭エコ活動賞



## マテックス株式会社〔東京都〕

既存住宅の窓の断熱リフォームによる「CO2の削減」

## ■最優秀地域活性化賞



## 香川大学直島地域活性化プロジェクト〔香川県〕

環境にぐうな取り組み、続けています～学生によるエコカフェ経営

## ■最優秀コミュニケーション賞



## 宗教法人長泉寺〔宮城県〕

宗教活動から低炭素社会の構築を目指す

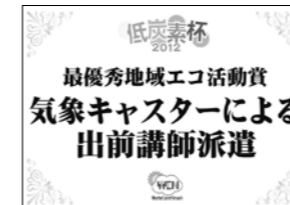
## 株式会社ピコエイダ〔東京都〕

ECOIS先進的省エネネットワーク、解析、サポートシステム

## 株式会社大林組 名古屋支店〔愛知県〕

低炭素社会に貢献する「環境配慮型社員寮」づくり

## ■最優秀地域エコ活動賞



## 越谷市立大袋東小学校〔埼玉県〕

自然・人・物との関わりを生かした環境教育と実践活動

## 社会福祉法人喜育園立山東保育園〔熊本県〕

「エコはえ〜こ（良い子）を育て、地域を育てる」

## 審査員特別賞

## ■最優秀プレゼンテーション賞

## 中越パルプ工業株式会社 川内工場〔鹿児島県〕

竹から生まれた紙物語～地域資源で築く環境未来～

## ■最優秀地域連携賞

## 特定非営利活動法人アサザ基金〔茨城県〕

牛久市周辺におけるBDF製造を具体化の第1歩とする循環型社会（低炭素社会）構築への実物大の社会モデル提示プロジェクト

## ■最優秀イノベーション賞

## 社団法人東京都トラック協会〔東京都〕

グリーン・エコプロジェクト推進活動事業

## おひさま進歩エネルギー株式会社〔長野県〕

市民出資によるエネルギーの地産地消

## ■ユニークプレゼンテーション賞

## 株式会社セタ〔新潟県〕

苔、及び苔シートによる緑化から繋がる地域活性化事業



特別賞、協賛・協力企業賞と受賞団体の皆さん